

※「はらまち九条の会」ホームページ <http://www.haramachi9jo.net>

※「はらまち九条の会」は会員405名。超党派で会員を募集中です。年会費千円。



九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.125

2010(平成22)年2月22日(月)発行

＜1732年2月22日は、アメリカ合衆国初代大統領ワシントンの誕生日＞

幼少の時、桜の木を切ったことを正直に答えたワシントンですが、1775年以来の独立戦争を指揮し、83年独立を達成。アメリカ建国の父。3選は民主制を妨げるとして、自ら2期8年で大統領を辞し、それがアメリカ大統領の任期の伝統となる。1799年67歳で死去。首都ワシントン、ワシントン州はじめ、多くの地がその名にちなんで名付けられている。



あの思い出の 懐かしの朝日座！

3月7日(日) 朝日座に行こう！

映画『いのちの山河』をみなさんとどうぞ！

「朝日座」は大正12年、関東大震災の年に開館

1923(大正12)年7月に開館した『朝日座』は、原町っ子にとって様々な思い出の残る懐かしい映画館です。大衆娯楽の殿堂、文化の普及の場として、映画上映のみならず、まだ市民会館のなかった時代、町の種々の催し物や学校の行事なども開催され、1991(平成3)年9月の閉館まで、約70年間原町の歴史とともに歩んできました。



「朝日座を楽しむ会」も発足

今では仙台からいわき間に残る唯一最後の映画館になりました。08年市民の有志により「朝日座を楽しむ会」(会長山城雅昭さん)が結成され、映画を見ると同時に、老朽化した建物ですが「朝日座」を街づくりの核にして活性化のため活用しようと、その活動が注目されています。

▲昭和42年9月、京都二条城にて、東映社長大川博氏と朝日座3代目館主の布川雄幸さん。(『朝日座全記録』より)

「朝日座を楽しむ会」では、3月20日(土)に相馬藩ゆかりの侍・丹下左膳の講演と、大友柳太朗・中村錦之助主演の『丹下左膳』2本上映会を開催。21日(日)にも上映会が開催される予定です。

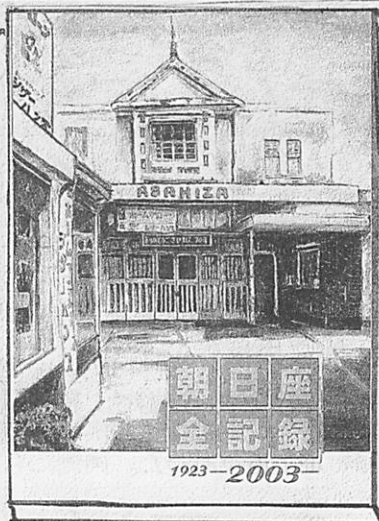
「いのちの山河」も「朝日座」で開催のこだわり

映画『いのちの山河』が完成し、私たちははらまち・小高「九条の会」が上映会の検討を始めたとき、誰ともなく「あの朝日座で開催しよう」とすぐに決まりました。

『いのちの山河』上映会は3月7日(日)で、まだちょっと寒いかもしれませんが、みなさんお誘い合わせて、あの懐かしい「朝日座」で良い映画をどうぞご鑑賞ください。お近くの方々にも広く声をかけてみてください。

上映委員会一同、心よりお待ちしております。

「いのちの山河」上映会を成功させましょう！



全国でも稀有の一大記録集

▲2003年7月、元館主の布川雄幸さんが発行された『朝日座全記録』。

○内容は町の映画館としての歴史の克明な記録と膨大な資料で、456ページもの大冊。全国にも例を見ない貴重な一大記録集です。

○前半は作家の二上英朗さんが「朝日座、わが青春の活動写真館」と題し、100ページにわたり朝日座の70年間の様々な軌跡を、綿密な調査の上で克明にまとめられています。

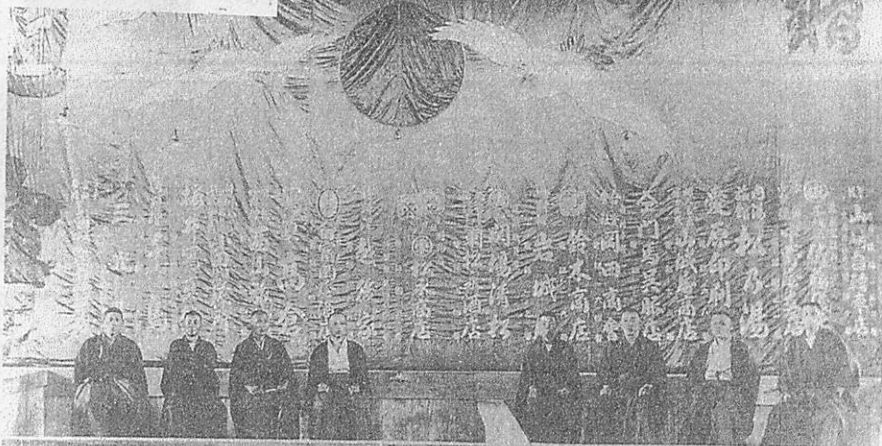
○後半は布川さんの記録で、1956(昭和31)年から1991(平成3)年の朝日座での上映番組のすべてがまとめられていて、圧倒されます。「ああ、あの時の映画だ」と思い出される方も多いことでしょう。

＜上のコピー＞表紙のカバー絵「朝日座閉館」は金井武さんが描かれたもので、カラー印刷でお見せできないのが残念です。(布川さんも金井さんも本会会員で、会報No.54、No.97に「戦争体験」を寄稿されています)

写真で見る『朝日座』

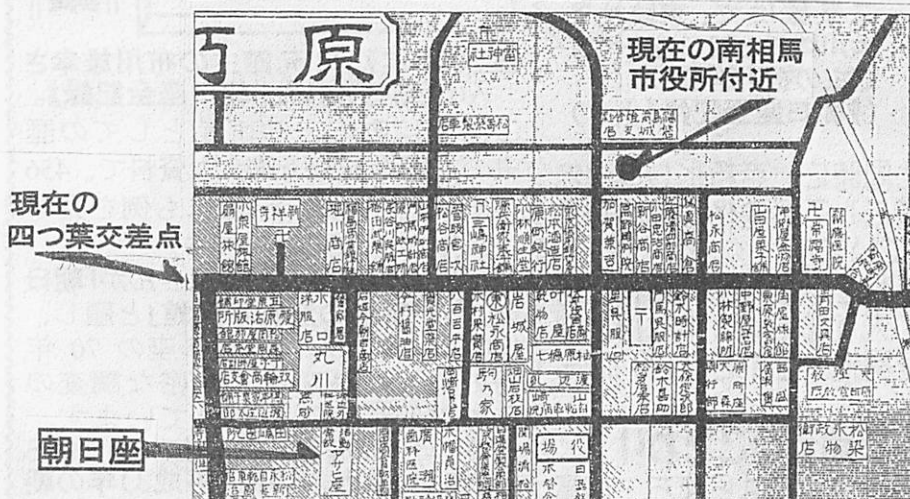
布川雄幸さん発行『朝日座全記録』より

◀「生まれ変わっても朝日座を守りたい」と話す
布川さんと朝日座。(画・鹿又 泰さん)



▲開館の頃は「旭座」、昭和
27年から「朝日座」と改
められ、昭和30年頃、枡
席から椅子席に改装された。

▲大正12年開館の記念写真。舞台緞帳の刺繍の連名は、右から
K.Y.山崎自転車店、木材商佐藤儀平、旅館・御料理中野屋支店、内
湯・旅館松乃湯、愛原印刷所、婦人良薬・山城屋商店、門馬呉服
店、合資会社岡田商店、鈴木商店、御料理岩城屋、関場清松、
松永酒店、松永商店、御料理越後屋、富岡屋酒店、写真高倉、
旅館・御料理西山旅館、小田製作所、桜井写真館、御料理千鳥、三光丸、藤
田自転車店の名が読める。館内は枡席で、花道もあり、花道の下には奈落と
呼ばれる薄暗い地下道があった。両側にも二階にも桟敷席がありました。



▲朝日座は大正12年7月
2日に開館。2カ月後の9月
1日の関東大震災で第一報を
米国に打電した無線塔ととも
に原町のシンボルでした。

▲大正15年の商業地図。上が西、下が東になっていて、当時の
本町の商店街。朝日座は「活動常設アサヒ座」と記されている。
現在の本町や駅通りの町並みと比べると興味深い。



◀朝日座は単なる映画館ではなく、町の音楽会、
学芸会、演説会、学校の映画教室なども開催され
た一大文化センターでした。朝日座前の“東一番
町通り”は商店も軒を連ねいつも賑やかでした。

町のあちこちの映画の立て看板。最盛期には朝日座、
原町映画劇場、セントラル劇場の三館があり、町民
はどんな映画がいつ来るのか、楽しみに見ていた。▶

